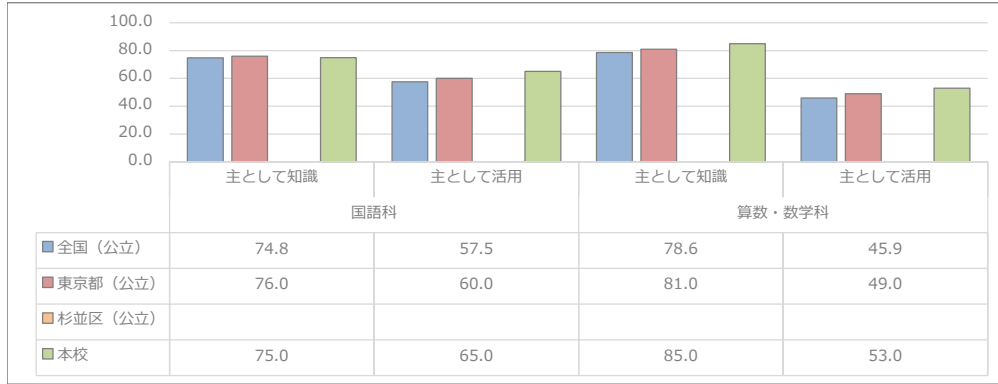
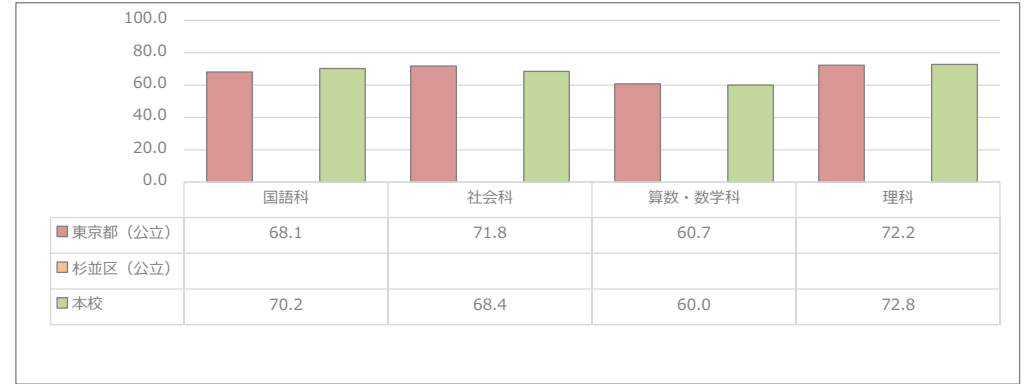


■全国「学力・学習状況調査」(小学校第6学年)



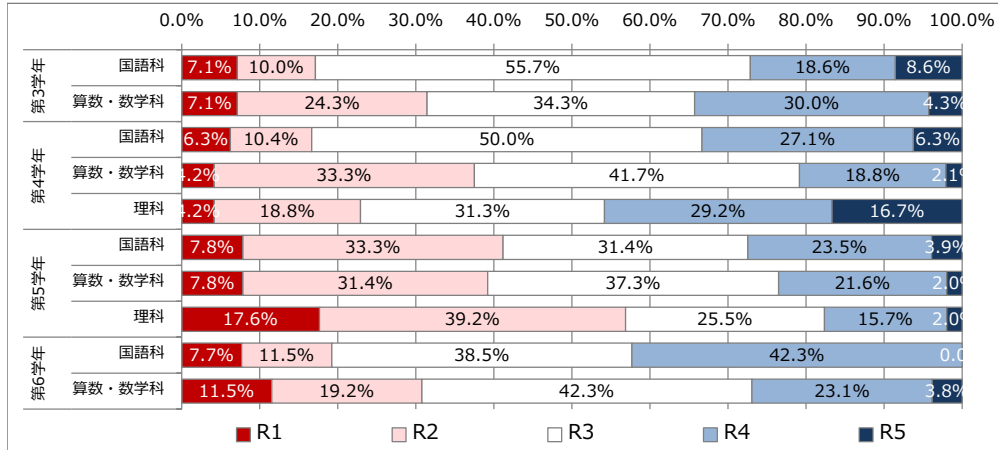
平均正答率(全設問に占める正答した設問の割合、%)の比較

■東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校第5学年)



平均正答率(全設問に占める正答した設問の割合、%)の比較

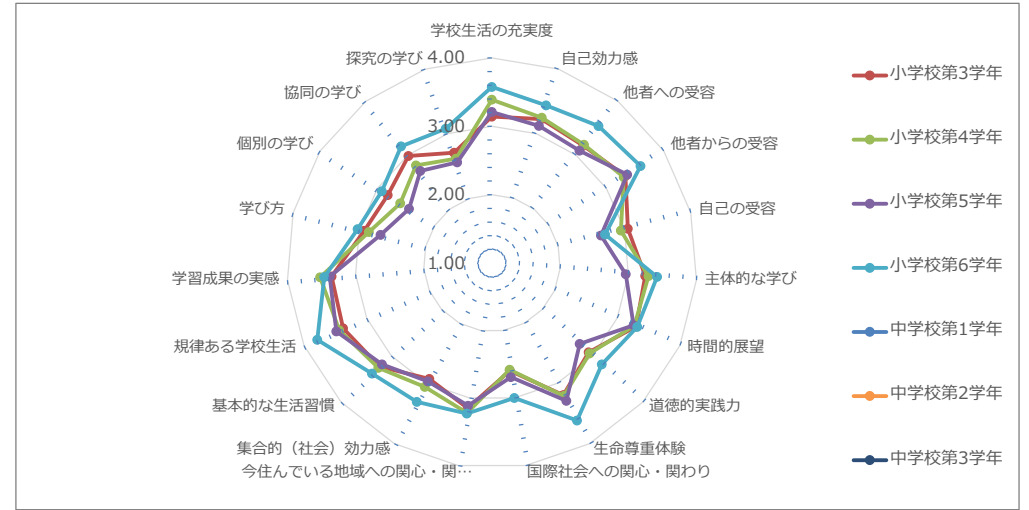
■杉並区「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」(小学校第3学年から第6学年)



学習指導要領に準拠した学習状況の評定(当該学年の全児童生徒に占める各段階の児童生徒の割合、%)

R1: 学び残しが多い R2: 特定の内容でつまづきがある R3: おおむね定着がみられる
R4: 十分な定着がみられる R5: 発展的な力が身に付いている

※空白は未実施の学年(小学校第5・6学年は各学校の希望実施)



■調査結果の考察と今後の取組

考察:

6年生は、全国平均、東京都平均より上回っている。特に活用問題のポイントが高くなっている。5年生は、東京都の平均と同程度である。本区の「特定の課題調査」結果からは、全体として杉並区の平均よりやや下回っている。R2層の児童をR3へ引き上げることが課題である。本校の児童は、学年によって差があるが「自己肯定感」があまり高いとはいえない。学習面、生活面でもっと自信を付けさせる必要がある。

今後の取り組み:

校内研究で取り組んでいる「自ら考え、表現する子どもを育てる」～学びあいを生かした学力向上～をさらに推進していく。児童一人一人が課題意識をもって、自分の考えを発表し友達の意見をよく聞き、意見交換をしながら課題解決をさせていく指導法を教師一人一人が実践していく必要がある。